

第50代 理事長
吉田 大樹

継承、そして進化 おもい ~50の情熱を、未来へ~

1. はじめに

社団法人福島青年会議所2013年度理事長を務めさせていただきます、吉田大樹と申します。歴史と伝統ある福島青年会議所を1年間預かるにあたり、ご挨拶をさせていただきます。2011年に発災した東日本大震災、特に原子力災害より福島の様子は一変してしまいました。こんな状況の中だからこそ、我々、青年がやるべき事があります。我々青年が、青年らしい運動をする事で、福島らしい復興、さらには明るい豊かな社会の実現に繋がると確信し、行動をして参ります。

2. 創立50周年について

2013年7月、福島青年会議所は創立50周年を迎えます。50年の歴史は、諸先輩の運動はもちろんですが、地域社会の皆様の協力があったため、継続してこられました。

また、福島青年会議所は50年の歴史の中で、様々な運動をしてきましたが、全て諸先輩の情熱(おもい)



が込められた運動をしてきたと思います。形は変わっても情熱(おもい)は不変であり、50年の情熱(おもい)を現役メンバーで継承し、進化させ、メンバー全員がベクトルを合わせ、今後50年へしっかり歩んで参ります。本年度のスローガンは、そういった過去50年の歴史や情熱(おもい)を、未来の50年に繋いで行けるようにとの願いを込めまして、掲げさせていただきました。

3. 公益法人格取得について

2008年12月に公益法人制度改革が施行され、福島青年会議所はこれまで準備を重ねて参りました。我々の運動は、明るい豊かな社会の実現が目的であり、そのための運動、事業を重ねて参りました。公益法人格を取得することにより、法的にも公益として認められ、より価値のあるものである証として、可能性を最大化するための手段として、公益法人格を取得する必要があると考えております。

また、取得した際の、運営や維持継続方法についても、しっかりと作り上げ、今後継承して参ります。新たな50年スタートするにふさわしい取得の時期であり、2008年から託されてきた責任を、しっかりと全うして参ります。

4. 理事長の想い

我々が愛する福島に、震災以降、大きな変化が起きています。その中でも人口減少については、最も大きな問題の一つと考えられます。現状、何も行動を起こさなければ、衰退していくことは目に見えています。更に、福島の子ども達の環境が大きく変わっ